



MOTIVE POWER



OWNER'S MANUAL

お客様へ

この度は PGO SCOOTER G-MAX125・150 をお買上げ頂きまして誠に有難う御座います。
商品に添付されている取扱説明書は英文で作られております。
従って、簡単では御座いますが、機能及び取扱い方法について説明している箇所を
日本語にてご理解頂ける様、本書を作成いたしました。
乗車される前に必ず本書をお読み頂けます様お願い致します。

G-MAX125 機種記号 AFM-125BCE

G-MAX150 機種記号 AFM-150BCE 4stroke エンジン（4T）として標記されます。

不具合等でお困りの場合は、お買い求めの販売店様へご相談ください。

PGO 日本代理店

NOVELFORCE INC JAPAN

内 容

安全に運転する為の注意点・・・2	乗車する際の注意事項・・・24
各部名称・・・3	エンジンを始動・・・25
車体識別・・・4	暖機運転・・・25
シャッターキー操作方法・・・5	スクーターに乗るにあたって・・・26
メーターインジケーター・・・6～12	ブレーキ操作・・・26
ハンドルスイッチ操作方法・・・13	サービスホールについて・・・27
ハンドルロック・・・14	エンジンの慣らし運転・・・28
シートロック・・・14	駐車・・・28
フューエルタンクキャップ・・・15	定期点検・点検スケジュール・・・29・30
タンデムステップ・・・15	エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス・・・31
ラゲッジボックス・・・16	エアクリナー・・・32
運行前点検項目・・・17	プラグの点検・・・32
ブレーキ・・・18	ギヤオイル交換・・・33
フロントブレーキ・・・18	フロントブレーキ点検・・・33
ブレーキフルード・・・18	ブレーキフルード点検・・・34
冷却水量点検・・・19	フロントフォーク点検・・・34
エンジンオイル量点検・・・20	ヒューズ・・・35
エアクリナー・・・21	バッテリー・・・35
タイヤ・・・22	主要諸元・・・36
スロットルグリップ・・・23	定期点検記録簿・・・37
スイッチ類・・・23	配線図・・・38
燃料・・・23	保証書・・・39・40
触媒・・・24	保証登録書・・・41

安全に運転する為の注意点

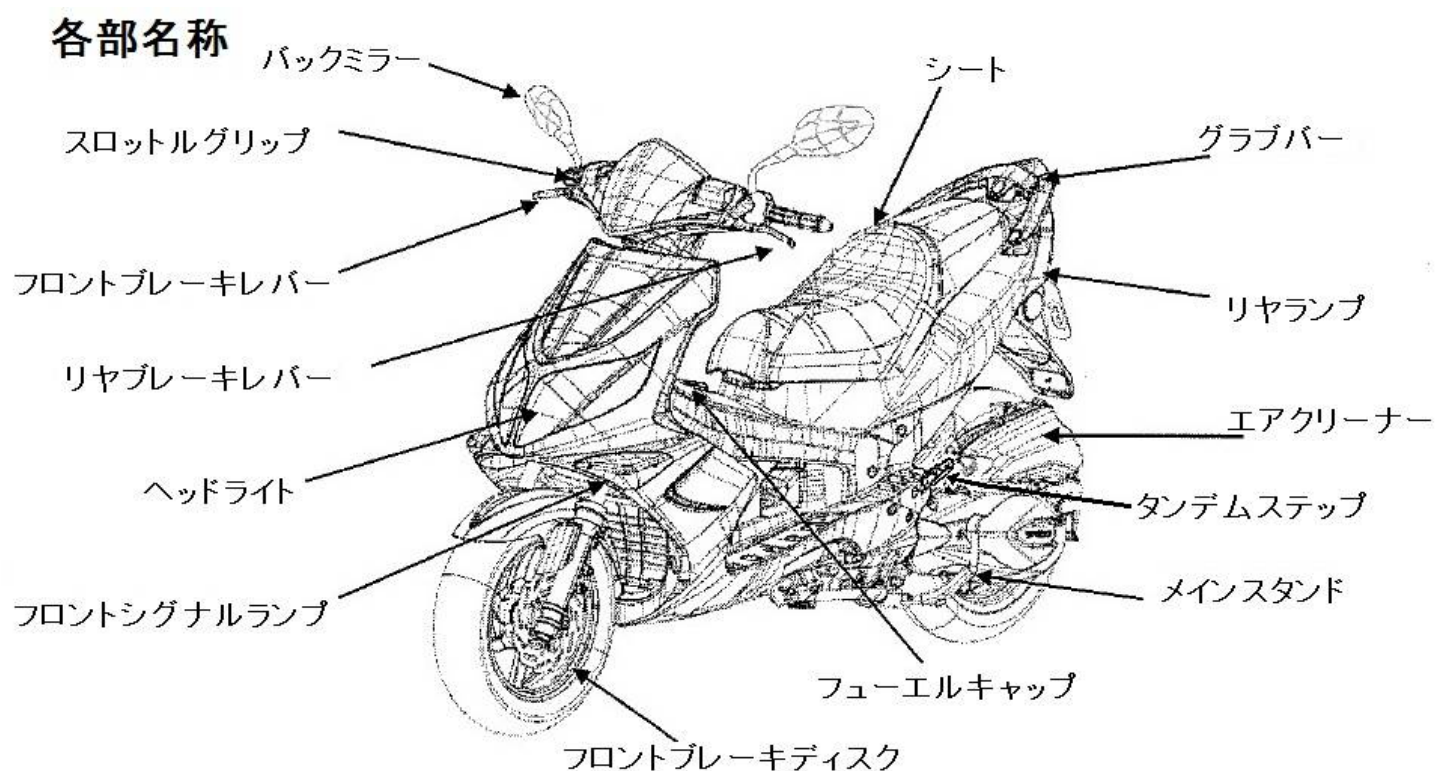
▲ 警告

運転時は十分な余裕を持ち、以下の用件に留意する必要があることを予め了解下さい。

安全運転のために

- 1 運行前点検は必ず実行し、修理が必要であれば修理をしてから運行してください。
- 2 多くの事故は経験の少ないライダーに関係します、慎重に運転しましょう。
- 3 乗車時は運転操作を妨げない服装で、明るい色の物を着用しましょう。他の運転者の死角に入らないようにしましょう。
- 4 交通法規を遵守してください。過度な速度は事故につながります、速度は控えめにしましょう。
- 5 他の交通に迷惑を掛けない様に気を付けましょう、交差点や駐車場の出入り口等は特に注意が必要です。
- 6 乗車時はハンドルをしっかり持ち、足はステップボードに乗せ、正しい姿勢で乗りましょう、後席に乗車させる人はステップに足を乗せ保持してください。
- 7 エンジン을 掛けたまま車両から離れないようにしてください。
- 8 悪路を走行する時はスピードを落とし、強い衝撃を受けないよう操作してください。

各部名称



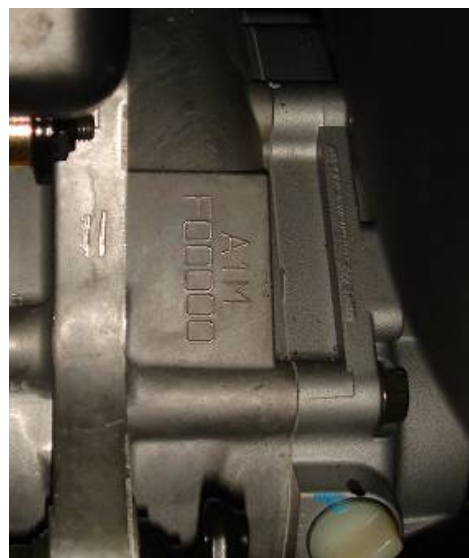
車体識別

車体を識別する為にフレームナンバーとエンジンナンバーがあります。

1. フレームナンバーは右側のボディカバー下のマフラー側から見上げた位置に有り
アンダーカバー内のフレームに打刻されています。



2. エンジンナンバーはベルトケース後端部に打刻されています。



※ フレームナンバー及びエンジンナンバーは部品の注文時に必要なだけでなく、盗難等に遭われた時に車体識別の為に必要です、メモなどにして保管されることをお奨め致します。

シャッターキー操作方法

1. シャッターの閉め方。



開いている状態



シャッターを指で閉める

2. シャッターの開け方。

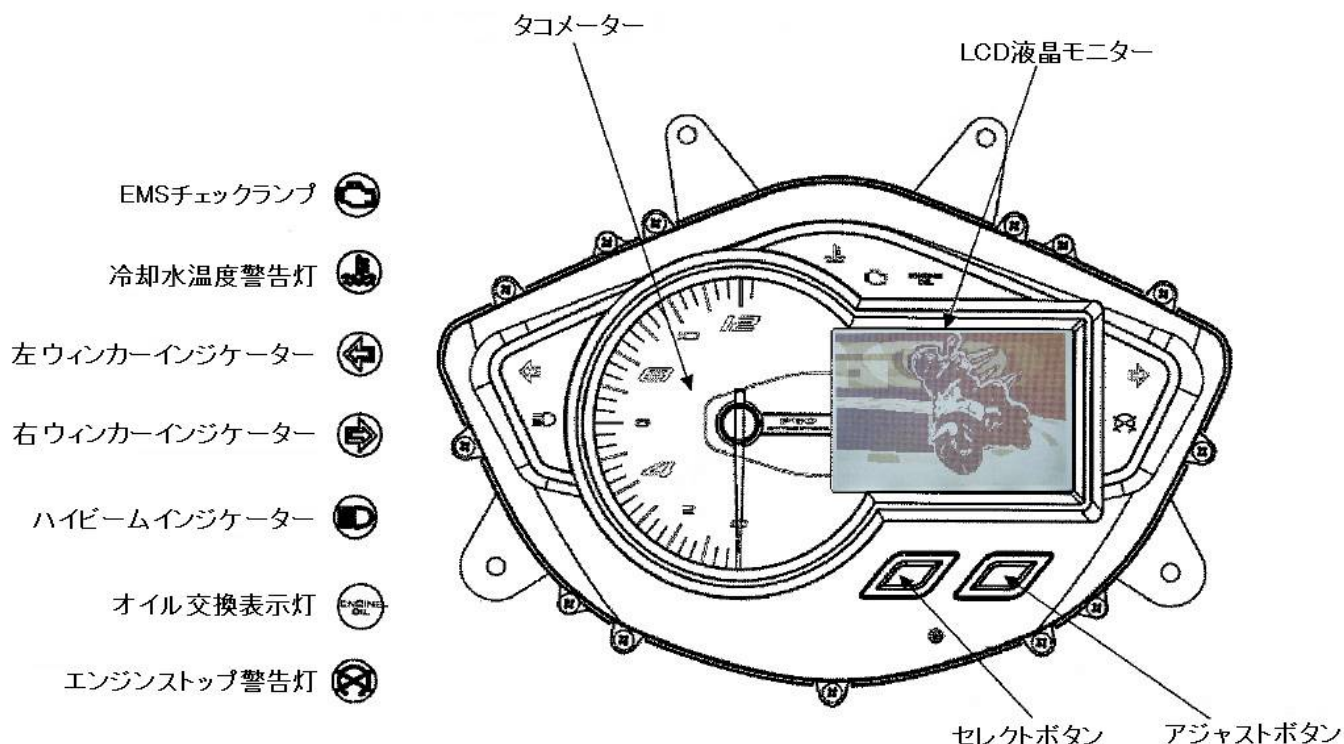


ボタンを押しながらスライドさせる



スリットにこの向きで奥まで差し込む

スピードメーターインジケーター



タコメーター エンジン回転数を表します。(指示数値×1000／毎分)

EMS チェックランプ キーを ON にして約 3 秒間点灯中にシステムの自己診断をしてその後
消灯します、もし消えない場合や走行中に点灯した場合は販売店様にご相談下さい。

オイル交換表示灯

オイル交換表示灯が点灯したらオイル交換次期です。早めの交換をお奨め致します。
交換後は **RESET・SELECT** ボタン表示及び操作方法を参照して表示をリセットしてください。
※初回交換目安の 300 km 時点でオイル交換表示灯は点灯しません距離を目安に交換して下さい。
※オイル交換表示灯は 3000 km 毎に点灯します。

ウィンカーインジケーター (グリーン) ウィンカー点灯時に点灯します。

ハイビームインジケーター (ブルー)

ヘッドライトの切り替えを HI にした時点灯しハイビームであることを表します。

SELECT ボタン 表示切替えに用います。

RESET ボタン 表示数値調整及びリセットに用います、数値調整時は押した回数だけ数値が
増加し、長押しすると早く数値を進める事が出来ます。

エンジンストップインジケーター

キルスイッチ作動時に点灯し、点灯中は始動出来ません。

SELECT・RESET ボタン表示及び操作方法

機能 モード	メインキー	表示	SEL	ADJ.	結果
ベーシックモード	ON	main menu	押す		Altitude
	ON	Altitude	押す		voltage
	ON	voltage	押す		Engine check
	ON	EMS OK!	押す		Set up
	ON	Set up	押す		main menu
速度表示 (ODO表示状態で)	ON	km		3秒長押し	mph
		mph		3秒長押し	km
ODO/TRIP Oil Fuelconsumption 切り替え	ON	ODO	押す		TRIP
		TRIP	押す		Oil
		Oil	押す		§ (km/l)
		§ (km/l)	押す		ODO
Reset(TRIP)	ON	TRIP		3秒長押し	Reset TRIP to ODO
高度計	ON	Altitude			高度表示 (エンジン停止時のみ)
オイルインジケータリセット (Oil表示状態で)	ON	点灯		3秒長押し	点滅
		点滅		3秒長押し	OFF
キャンセル (上段操作のキャンセル)	ON	点滅	押す		点灯
セットアップ	ON	Set up	3秒長押し		時計合わせ
時計合わせ	ON	時間表示点滅		押す	任意数値に調整
	ON	時間表示点滅	押す		分表示点滅
	ON	分表示点滅		押す	任意数値に調整
	ON	分表示点滅	押す		コントラスト調整
コントラスト 調整画面	ON	表示点滅		押す	任意表示に調整
	ON	表示点滅	押す		高度表示
高度計調整画面	ON	気圧表示点滅		押す	気圧数値調整不可
	ON		押す		高度調整画面
	ON	高度表示点滅		押す	任意数値に調整
	ON		押す		速度設定
アニメーション画面 切替わり速度調整	ON	速度表示点滅		押す	50~130kmまで任意
			押す		メインメニューへ戻る
パワーテスト	ON	メインメニュー	押す	押す	0~100km/h計測
パワーテスト 0~100km/h	ON	0~100km/h		押す	リセット
	ON	到達時間計測	3秒長押し		メインメニューへ戻る
パワーテスト 0~400m	ON	0~400m		押す	リセット
	ON	通過時間計測	3秒長押し		メインメニューへ戻る
メインメニュー	ON	標準	3秒長押し		アニメーション
	ON	アニメーション	3秒長押し		標準
メインメニュー (アニメーションアニメーション)	ON	標準	実速度 ≥ 設定速度		速度表示拡大
	ON	速度表示拡大	実速度 ≤ 設定速度		標準

メニュー画面切り替え



メインメニュー
(標準)

SEL. ボタン
3秒以上長押し



メインメニュー
(アニメーション)

Speed $\geq$

Speed alarm



Speed $\leq$ 40
km/h

スピードブザー
/水温表示



ADJ



ADJ



ODO 表示画面で ADJ ボタンを
3秒以上長押しすると表示単位を
KM/H と MPH で切り替える事が
出来ます。

TRIP Km OIL Km/l の各画面で ADJ ボタンを3秒以上長押しすると
数値がリセットされます。

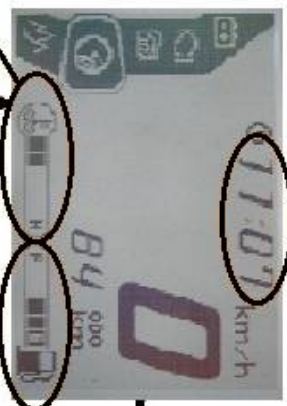
ADJ

ADJ



ベータシックモード

時計



水温計

燃料計

SEL.



SEL.



バッテリー電圧

SEL.

Altitude=標高表示
標高表示はエンジンが
止まっている状態で
表示します。

SEL.



SEL.



この画面から SEL. ボタンを
3秒以上長押しすると、
SETUPのサブメニュー画面に
移行します。

この画面から SEL. ボタンを
3秒以上長押しすると、EMS
インフォメーションのサブ
メニュー画面に移行します。

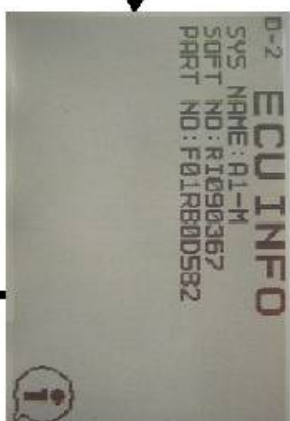
EMSインフォメーション



SELボタン
3秒以上長押し



SEL.



SEL.



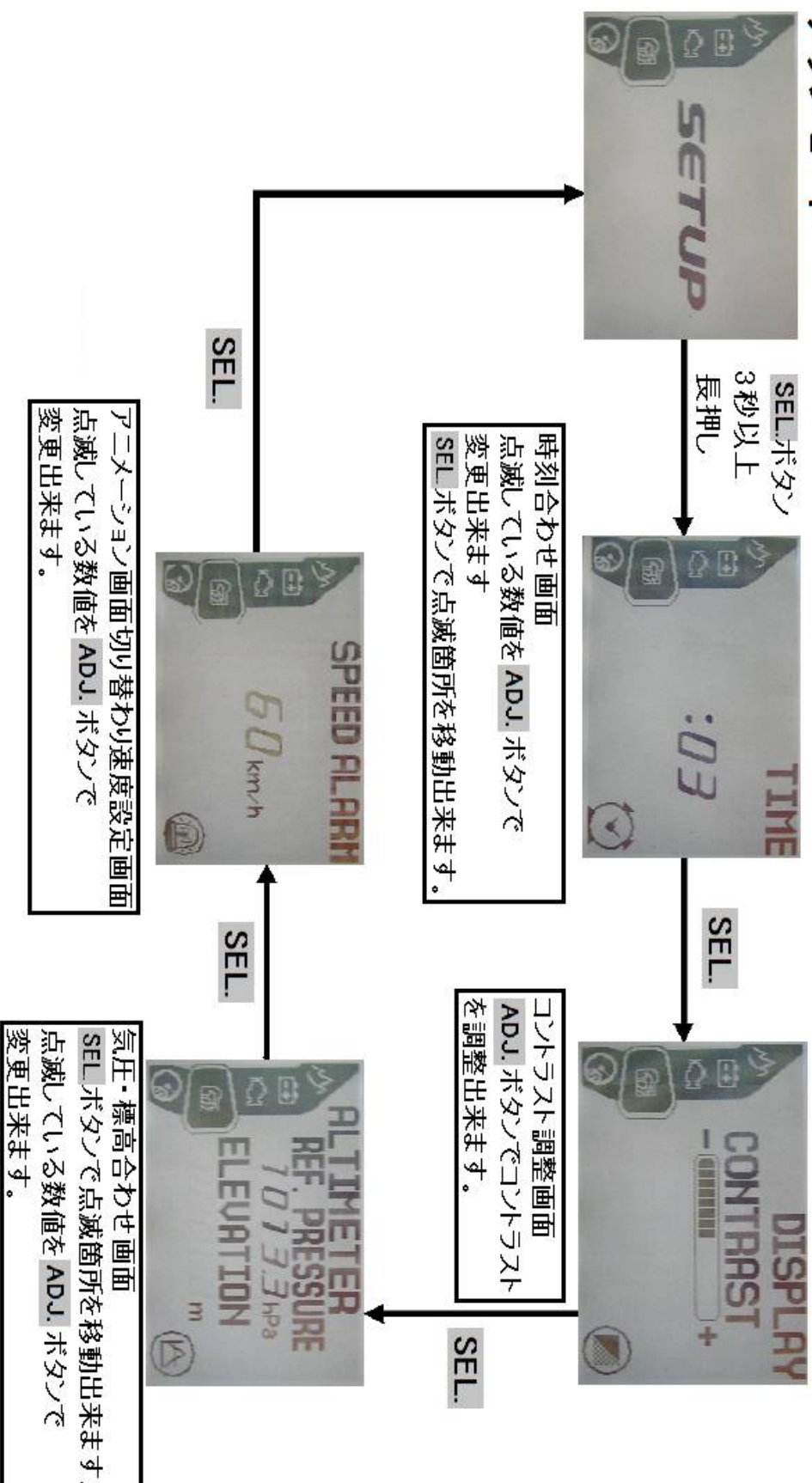
ADJ.ボタン
5秒以上長押し



SELボタン
3秒以上長押し



セットアップモード



- ※数値点滅状態で何も操作しない状態が20秒継続すると自動的に終了しSETUP画面トツパに戻ります。
- ※ALTIMETERの画面の変更はエンジン停止時でキルスイッチがRUNの状態でフェューエルポンプが止まった状態でのみ変更可能です。
- ※REF.PRESSUREの数値は点滅しますが変更出来ません。
- ※EREVATIONに点滅位置を変更後すべての桁が同時点滅しますがこの状態では数値変更出来ません、一度 **ADJ.** を押して一番左の桁が点滅してから変更が可能です、但し一番左の桁は“0”か“1”しか選択出来ません。

パワーテストモード



SEL.



SEL.



ADJ. ボタンと SEL. ボタンを同時に3秒以上長押しするとパワーテスト画面に切り替わります。
SEL. ボタンを押すと測定画面に切り替わります。

0-100km/hテスト
車両が動き出すと同時に計測が開始されます。
ADJ. ボタンを押すと記録がリセットされます。

0-400mテスト
車両が動き出すと同時に計測が開始されます。
ADJ. ボタンを押すと記録がリセットされます。

※計測途中で中止する場合は ADJ. ボタンを3秒以上長押しして離すと計測が止まります。

※上記操作で止めた記録は ADJ. ボタンを押すとリセットされます。

※測定画面から通常画面に戻るには SEL. ボタンを3秒以上長押しすると戻ります。

ハンドルスイッチ操作方法

1. HI/LO ビームスイッチ

“HI” HI・・・ハイビームがオンの状態です。

“LO” LO・・・ロービームがオンの状態です。

スイッチがLO側にあるとき、さらに下向きにスイッチを押すとパッシングさせることができます。

2. ターンシグナルスイッチ

ウインカーを出したい方向へスイッチを押し込むとウインカーを作動させることが出来、戻すときは中立の位置で真ん中のボタンを押すとキャンセルできます。

3. ホーンスイッチ

スイッチを押すことにより、ホーンを鳴らすことができます。

4. エンジン RUN/OFF スイッチ

下側に押すとエンジンを掛からない状態に出来、上側に押すとエンジンを始動出来る状態にします。

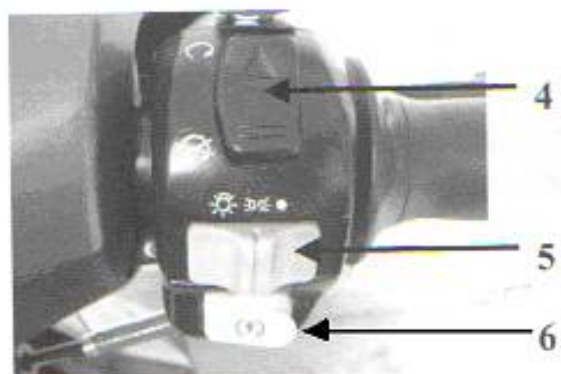
5. ヘッドライトスイッチ

ヘッドライトを OFF⇄ポジション⇄ON に切り替えるスイッチです。

日本仕様はヘッドライト常時点灯の為作動しません。

6. スターターボタン

エンジン始動させるボタンです、単独では作動しません、左右どちらかもしくは両方のブレーキを握りながら押すとエンジンを始動します。



ハンドルロック

ハンドルロックを掛ける為には、まずハンドルを左に切り、次にキーを  の位置から  の位置に回す。もし回らない場合はハンドルを少し戻して行う。



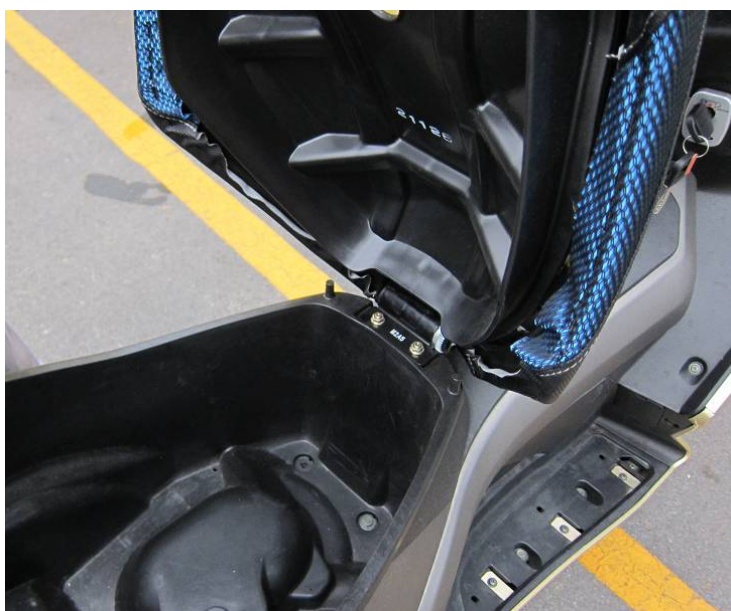
シートロック

キーが、どの位置にあっても押しながら左にひねる事でシートを開けることができます。またオートオープンタイプのシートを採用していますのでシートロック解除と同時にシートが自動で開きます。

※注意！

シートの上に物を乗せた状態のままシートロックの解除を行うと乗せていた物が落下して破損に繋がります、シートロック解除時にはシートに物を乗せない様にしてロック解除と共にシートが開いても周囲に当たる物などが無い事を確認の上シートロックを解除して下さい。

シート上に載せた物やシート内の物がシートを開けた事に起因して破損しても補償されません。



フューエルタンクキャップ

- キーを  オフの位置から押しながら右にひねるとフューエルタンクキャップを開けることができます。
- 閉める時は、キャップを上から押し込んでください。



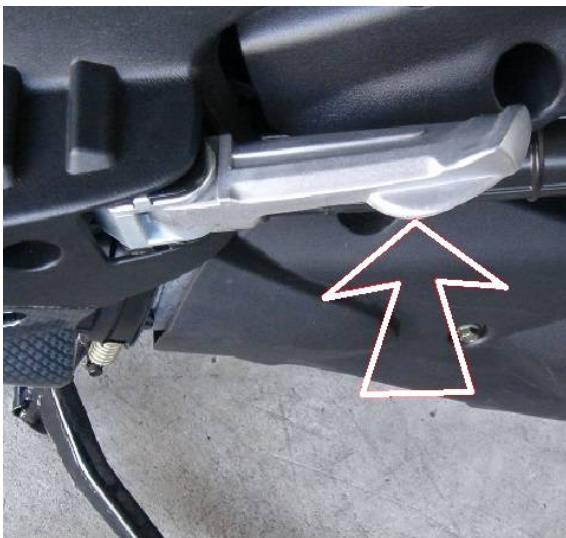
タンデムステップ

二名で乗車する場合、後部座席に乗車する方の為のペダルが装備されています。

※飛び出し式ペダルなので周囲に当たる物が無い事を確認の上操作して下さい。

ペダル先端付近を車体内側方向へ『カチッ』と音がするまで押し込むとロックが解除されペダルが外側へ飛び出します。

使用後は『カチッ』と音がするまで折りたたんで下さい、1度目の音がする位置でロックされますが、更に奥まで押し込むと再度ロックが解除されてしまうのでご注意下さい。



ラゲッジボックス

座席の下がラゲッジボックスになっています。

ラゲッジボックス内に貴重品や壊れやすい物などはいれないで下さい、ラゲッジボックス内に入れた貴重品等の破損等による損失は補償対象外となります。

ラゲッジボックス内シガーライターソケットは携帯電話充電等にお使い頂けます、但し、使用可能電流値は1 A 以下となっており過負荷での使用はヒューズが切れる原因となりますので注意して下さい。



- ラゲッジボックス内の耐荷重は最大5 k g までです。
- 長時間エンジンが作動しているとラゲッジボックス内の温度が上がることがありますのでご注意ください。
- 壊れやすいものは入れないで下さい。
- 雨天や洗車などでボックス内に水が入る場合があります、防水性のある物で包むようにしてください。
- 車両から離れるときは必ずシートロックをご確認ください。
- 故障診断機接続用ソケットが装備されておりますが一般の方は使用出来ません
万が一ショート等させると故障の原因となりますので使用しないで下さい。
(人為的な原因でショートさせた事による故障は補償対象外になりますのでご注意ください)
(ラバーキャップの劣化による水の浸入等によってもショートの原因になりますので
ラバーキャップの劣化も点検し必要であれば交換して下さい)

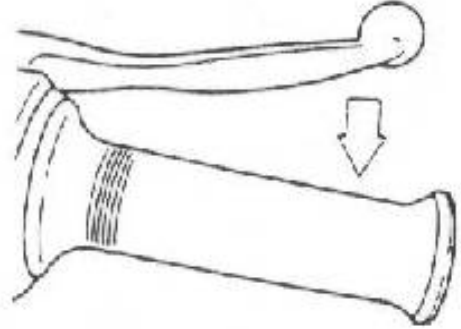
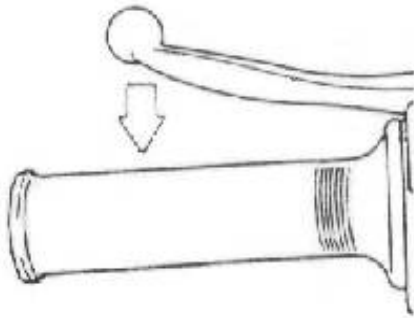
運行前点検項目

車両運行前に必ず以下の項目を点検下さい。

項目	点検内容	ページ
フロント・リヤ ブレーキ	作動、遊び、液量を点検し補充の場合は FMVSS DOT3(4) または SAEJ 1703 ブレーキオイルを補充してください。	18,26
スロットル グリップ	スムーズに作動するか点検し、必要であれば 給油して下さい。	23
タイヤ	空気圧と磨耗状態の点検。	22
ケーブル類	スムーズに動くか点検し必要であれば給油して下さい。	—
ブレーキレバー	スムーズに動くか点検し、必要であれば給油して下さい。	18,26
センタースタンド	スムーズに動くか点検し、必要であれば給油して下さい。	—
各部組みつけ	各部取り付け状態を点検し、必要に応じて増し締めや調整 を行って下さい。	—
燃料タンク	残量を点検し、必要なら補充をして下さい、また、漏れが 無いか点検して下さい。	9,15
灯火類	点灯確認を行い切れているものは交換して下さい。	—
オイル	オイルレベルゲージでエンジンオイルの量と汚れを点検 し必要ならば交換する、交換後はメーター内インジケータ ーをリセットして下さい。 ギヤオイルも点検し必要であれば給油して下さい。	6,20, 33

ブレーキ

1. ブレーキレバーには適切な遊びが必要です、約10～20mm遊びがあることを確認し、少なすぎたり多すぎる場合は、最寄りのPGO取扱店で点検を受けてください。
2. ブレーキを数回掛け、離れた時にホイールが軽く回るか点検する。
回転が重い場合はブレーキパッドの戻りが悪い可能性がありますので、最寄りのPGO取扱店で点検を受けてください。



フロントブレーキ

ハンドルを持ちレバーを握り機能していることを確認してください。
作動時に違和感がある場合は速やかにPGO取扱店で点検を受けてください。

- * 運行前点検を怠ると何らかの不具合が生じる危険がありますので必ず点検を行い必要な修理、調整を毎日でも実行してください。

ブレーキフルード

ブレーキフルードの量はハンドルカバー横から覗き込むと点検窓により点検できます。

リザーバタンクを水平にしてから点検して下さい。

補充が必要な場合はFMVSS DOT3

またはSAE J1703の物を補充してください。

また、ブレーキホースやホース接続部分等に於いて液漏れを発見した場合は絶対に運行せず速やかにPGO取扱店で点検・整備を受けてください。



ブレーキパッド

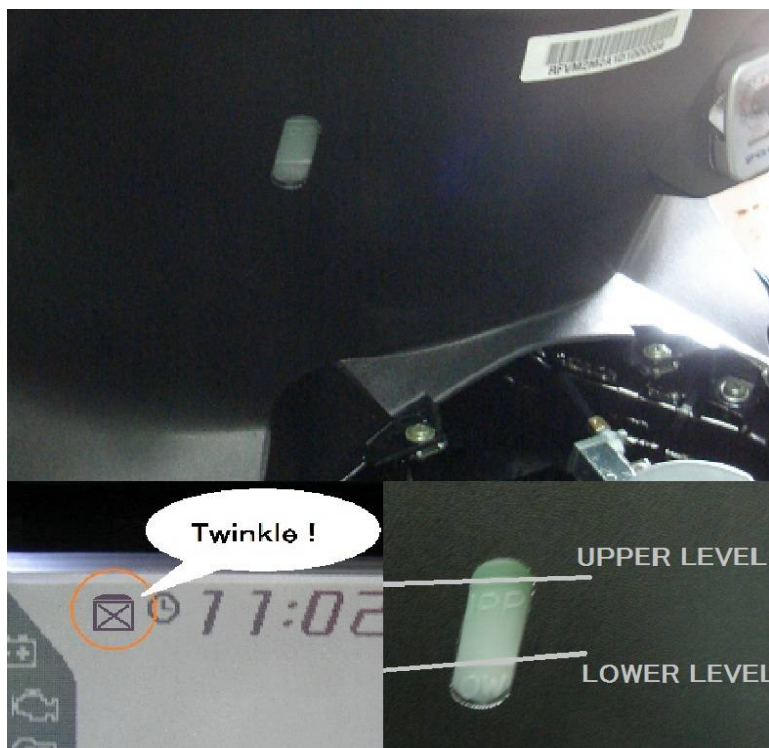
ブレーキフルードの減少及び握ったときの違和感はブレーキパッドが減ったことに起因する場合があります、速やかにPGO取扱店で点検を受けてください。

- * ブレーキパッド交換は有資格者に委託してください。

冷却水量点検

1. 冷却水量点検

乗車前に必ず冷却水の量を目視とメーター内インジケーターで確認して下さい。

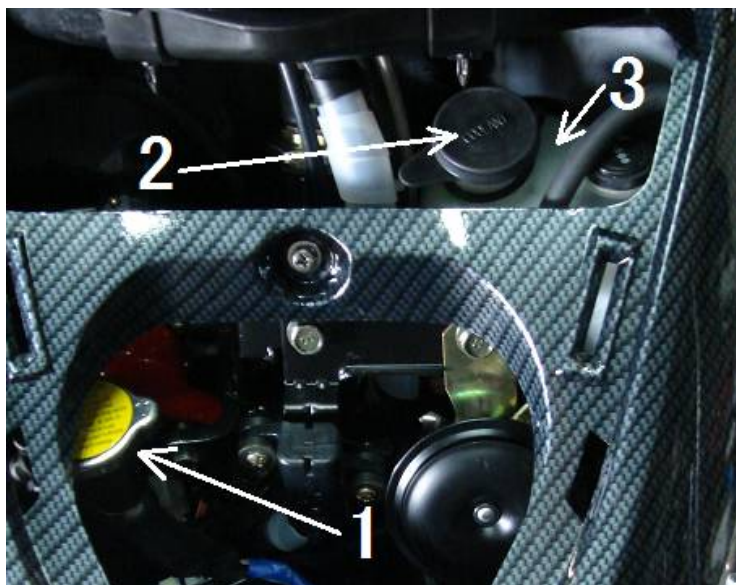


※冷却水が不足した場合、上図のように冷却水量のコーションが点滅します。

2. 冷却水補充

冷却水量が **LOW** レベル以上で **HIGH** レベル以下に補充して下さい。

冷却水は指定の希釈濃度を守って下さい、通常 30%以上 55%以下が目安です。

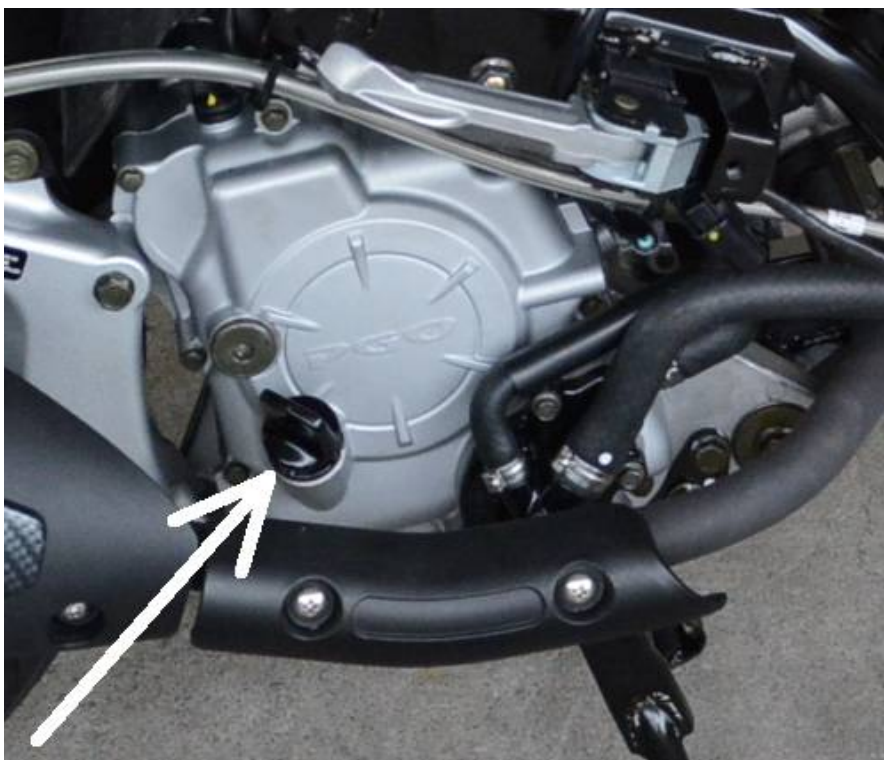


1. ラジエーターキャップ：絶対にエンジンが熱い時に開けないで下さい、熱湯が噴き出してやけどする事があり危険です！
2. リザーバータンクキャップ：ローレベル以下にならない様ここから冷却液を補充して下さい。
3. リザーバータンク：レベルゲージで液量を点検して下さい。
4. 冷却水は2年毎に新しい冷却水に交換して下さい。

エンジンオイル量点検

4T エンジン

- エンジンオイルは初回300kmで、その後3000km毎に交換してください。
- オイルレベル点検は平坦な場所で暖気後2～3分経ってから行って下さい。
- オイルレベルゲージのロウレベル以下にならないようにオイルを補充して下さい。



エアクリナー

エアクリナーは空気中の埃を取り除き磨耗度合い軽減に重要な部品です。常に清潔であるようにあなた自身もしくは PGO 取扱店で定期的なメンテナンスを行ってください。



エアクリナーエレメント

タイヤ

タイヤの性能を保持し磨耗を抑える為に以下の点に留意してください。

1. 空気圧

空気圧は基準値を守りましょう。

※ 空気圧の測定は走行前に行い、外気とタイヤ内空気の温度差が生じない状態で測定してください。また、外部からの圧力も正確な測定の妨げになります。

空気圧の基準値は 前輪：2.0kg/cm² 後輪：2.0kg/cm² です。



空気圧が高い場合



空気圧が低い場合

2. 簡単な点検

乗車前にタイヤの外観を点検し過度の磨耗や釘など刺さっていた場合は、速やかに PGO 取扱店で点検・整備を受けてください。

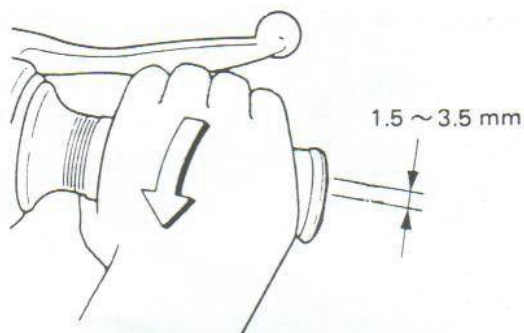
3. タイヤ溝の深さチェック

過度に磨耗したタイヤは大変危険です、溝の深さが十分ないと、泥や濡れた路面で顕著に滑ります。溝の深さを点検し0.8mm以下になったら速やかに交換しましょう。

スロットルグリップ

- スロットルグリップを操作し遊び量と作動状態を確認して下さい。
- 手を離れた時、速やかに元の位置へ戻るか確認して下さい。

調整方法は PGO 取り扱い店へお問い合わせ頂くか依頼して下さい。



灯火類

スイッチを操作し、すべてのランプ、バルブ、インジケーターが作動することを確認して下さい。

スイッチ類

スイッチを操作し、作動を確認して下さい。

燃料

燃料が十分にあるか確認して下さい。

タンク容量は 7 L です。

※ 注意！

1. 燃料は無鉛ガソリンを使用して下さい。
2. 給油口の細くなっている部分までガソリンを満たさないで下さい、あふれてしまう危険性が有ります。

触媒

触媒は排気ガス中の有害物質を低減させる為の装置で、排気管内に設置されています。



1. 走行直後のマフラーは高温になり危険です、駐車する時は周りに燃えやすいものが無い事を確認し、なるべく歩行者などから遠ざけて駐車してください。
2. 燃料は必ず無鉛のガソリンを給油してください。
3. 走行中や空ぶかし直後にメインスイッチをオフにしないで下さい、未燃焼ガスが触媒を過度に加熱させ機能低下に繋がります。
4. 燃えやすい物の上での走行、駐停車はしないで下さい。
5. 常に良好なエンジン状態を保ち、異常燃焼で触媒を過度に熱を持たせないようにしてください。
6. 触媒が正常な作動を続ける為に、定期点検を心掛けてください。

乗車する際の注意事項

1. 乗車する前にすべての操作システム及び機能を把握してください。
又、何らかの問題がある場合は PGO 取扱店にご相談下さい。
2. 締め切った場所でエンジンを掛けしないで下さい。
3. 乗車前にサイドスタンドを必ず確認して下さい、サイドスタンドを出したまま走行すると大変危険です。

エンジン始動

1. エンジン RUN/OFF スイッチが RUN の位置にあることを確認し、

メインキーを "○" の位置まで回してください。

2. EMS チェックランプが消え、フューエルポンプの作動音が止まるのを確認後、

スロットルグリップ全閉状態で、

ブレーキレバーを握り、スタートボタンを 5 秒以内で押して下さい。掛からない

場合は少し時間を空けて（5～10 秒程）再度スタートボタンを操作して下さい、

その場合も 5 秒以内で押して下さい。



※ 注意！

エンジンが掛からない時でも、連続して 5 秒以上スタートボタンを

押し続けしないで下さい、電気系統に過大な負荷が掛かり故障の原因になります。

暖機運転

エンジン保護の為に運行前に 5 分程度アイドリングをしてエンジンを暖機して下さい。

始動直後で暖まらないうちに負荷を掛けないようにして下さい。

☆ 新車購入直後の場合は“エンジンの慣らし運転”のページをよく読み、

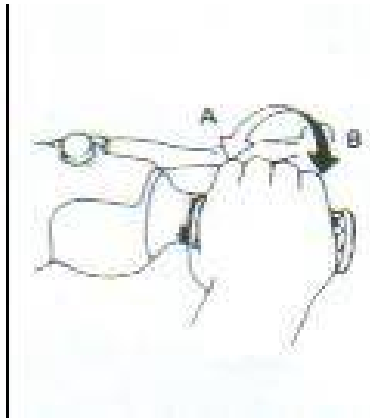
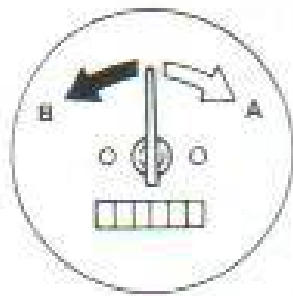
まず慣らし運転を行って下さい。

スクーターに乗るにあたって（暖機終了後）

1. リヤブレーキを握ったままセンタースタンドを上げてください。
2. 正しい乗車姿勢でシートに座り、バックミラーを調節してください。
3. 周りの交通状況を確認後、発車の合図を出してから発車しましょう。
4. ゆっくりスロットルグリップを操作し、発車出来たら合図を戻しましょう。

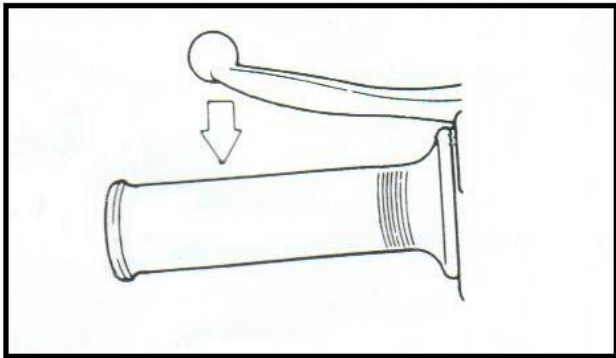
スロットル操作

スロットルグリップを手前に捻ると増速し、戻すと減速します。スムーズな操作を心掛けましょう。

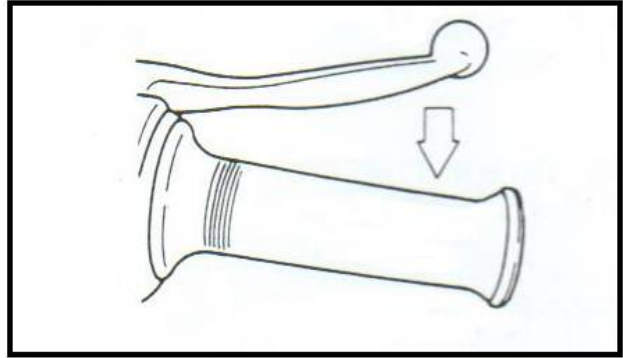


ブレーキ操作

1. スロットルグリップを戻して下さい。
2. 前後ブレーキをゆっくり握って下さい。



リヤブレーキ



フロントブレーキ

※ 注意！

1. 滑ったり、転ぶ恐れがあるので急ブレーキは避けて下さい。
2. 車体が傾いている時は特に注意して操作しましょう、不用意な操作は転倒等の原因になります。
3. 未舗装路やマンホール、濡れた路面等は滑りやすい為スピードを落としてください。
4. 濡れた路面や下り坂ではブレーキが効きづらくなります、十分減速して下さい。

サービスホールについて

ラゲッジボックス内底面に取り付けてあるゴムキャップはサービスホールといい簡易整備を行う為に装備されておりますが G-MAX125・150 では使用しません。取り外すと中に調整ネジが見えますが、工場出荷時に調整してベストな位置でネジロックされています。

このネジは位置をズラしてしまうとアイドリング不良になり修復が困難になります絶対に調整ネジを調整したりロックナットを緩めたりしないで下さい。



※この調整ネジを調整したりロックナットを緩めた事に起因する不具合は補償されませんのでくれぐれも調整等行わない様ご注意ください。

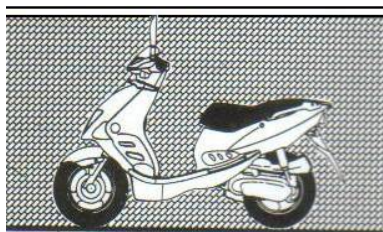
エンジンの慣らし運転

新車から 1,000 k m まではスクーターの寿命に一番影響する時です、1,000 k m を超えるまでは過大な負担を避け、出力の半分程度で走行しましょう。

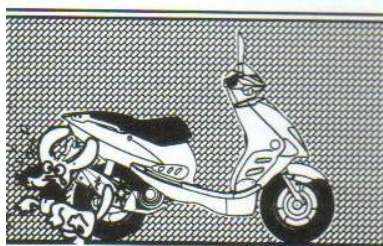
エンジン各部が適切なクリアランスを確保出来るように、過大な負担や急激な動作は避けましょう。

1. 0 ～ 1 5 0 k m スロットル開度は 1 / 2 以下にして下さい。1 時間に 5 ～ 1 0 分程度エンジンを冷やすようにし同じ速度を長時間保持しないで、速度を変えながら走行します。
2. 1 5 0 ～ 5 0 0 k m 長時間スロットル開度 1 / 2 以上で保持しないで下さい。
※ 3 0 0 k m で一度エンジンとギヤのオイルを交換して下さい。
3. 5 0 0 ～ 1,000 k m スロットル開度 3 / 4 以下にして下さい。
4. 1,000 k m 以上 長時間全開で走行しないようにして下さい。
※ 注意！ 慣らし運転中に何か問題が起きた場合、PGO 取扱店にご相談下さい。

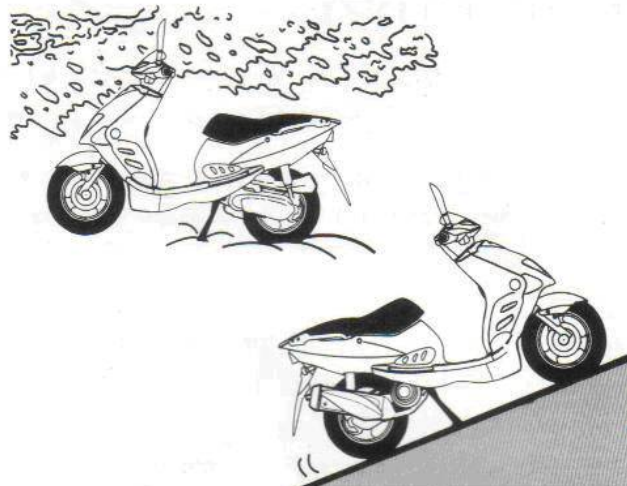
駐車



正しい止め方



誤った止め方



誤った止め方

※ 注意！ 走行直後はマフラーが非常に熱くなっている為、子供や歩行者から出来るだけ離して駐車して下さい。

坂道や地盤が不安定な場所は転倒する危険性がある為駐車しないで下さい。

定期点検

性能を維持し安全に運転をする為に、定期点検を励行し定められた期間に点検、調整潤滑油の補充・交換を行って下さい。

安全運転は運転者の義務です、メンテナンスと油脂類の補充は常に意識し、偶発的な事故以外の重要な予防措置と認識ください。

＊注意！ 舗装路の走行を目的にデザインされていますので、悪路や濡れた

路面を走行する時は、エンジンの消耗が早まるのでエアクリナーを頻繁に掃除して下さい。

点検や整備についてご不明な点がある時は、PGO 取扱店へお尋ね下さい。

定期点検スケジュール

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
エンジンオイル*	交換（800cc） 全容量（1000cc）	○	3000 k m毎に交換。					
オイルフィルタ	交換	○	5000 k m毎に交換					
オイル ストレーナー*	清掃又は交換	○	3000 k m毎に清掃又は交換					
エアクリナー	清掃又は交換		○	○	○	○	○	○
ギヤオイル*	交換（90cc） 全容量（110cc）	○	○		○		○	
ブレーキ	作動と液漏れ点検		○	○	○	○	○	○
クラッチシュー*	点検又は交換		○	○	○	○	○	○
タイヤ	磨耗点検又は交換		○	○	○	○	○	○
車軸*	点検・増し締め		○	○	○	○	○	○
F フォーク*	機構及び液漏れ点検	○	○	○	○	○	○	○
ステムベアリン*	ガタ点検・増し締め			○		○		○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

項目	内容	定期点検と走行距離による点検						
定期点検月		1	3	6	9	1 2	1 5	1 8
走行距離		300	3000	5000	8000	10000	13000	15000
サスペンション*	作動と液漏れ点検	○	○		○		○	
メイン・サイド スタンド	作動点検又は交換	○	○	○	○	○	○	○
各ボルトナット	緩み点検・増し締め	○	○	○	○	○	○	○
バッテリー	電圧点検・電極清掃		○	○	○	○	○	○
バルブ クリアランス*	冷間時に測定する IN・EX 共 0.08mm	必要であれば調整する。						
スパークプラグ*	清掃又は交換			○		○		○
V ベルト*	磨耗点検又は交換			○	A	○	A	○
フュエルフィーデ ィングシステム*	ホースのヒビとブ ロックの点検			○		○		○
アイドル回転数*	1700±100rpm	○	○	○	○	○	○	○

“*” マークの項目は PGO 取扱店にて点検・整備を依頼して下さい。

“A” マークの項目はエンジン性能が著しく低下している場合、点検又は交換して下さい。

※ エンジン保護の為、3000 k m 走行毎にエンジンオイル交換、オイルストレーナー清掃。 5000 k m 走行毎にオイルフィルター交換、ギヤオイル交換を行って下さい。

※ ブレーキフルード交換

1. マスターシリンダー分解や、キャリパー分解時には新しいフルードを補充してください
2. 油量はこまめに点検して下さい。
3. マスターシリンダーとキャリパーのオイルシールは2年毎に交換して下さい。
4. ブレーキホースは4年毎に交換して下さい。

エキゾーストコントロールシステムのメンテナンス（触媒装着車）

1. 触媒は、燃料・イグニッション・インテーク／エキゾーストシステムを定期的にメンテナンスすることによって、触媒のメンテナンスとなります。
2. エアクリーナーを点検（21，32ページ参照）
3. スパークプラグの点検（32ページ参照）
4. 燃料システムの点検： フューエルパイプのひび、漏れの点検又は交換。
5. マフラー点検： 排気漏れを点検、必要ならばガスケット交換。
6. アイドリング点検

エアクリナー



4T エンジン

エアクリナー点検時にエアクリナーボックス内に多くホコリの蓄積が認められるような場合はエンジン出力の低下と燃料消費増大に原因があると考えられます、こまめに点検、清掃を行いましょう。

1. エアクリナーカバーを外す。
2. エアクリナーエレメントを外す。
3. 圧縮空気で汚れを吹き飛ばして清掃し、必要ならば交換する。
4. エアクリナーエレメントを元の位置に戻し、カバーを隙間が開かないように気を付けて取り付ける。

※ 注意！ エアクリナー分解中にエンジンを掛けしないで下さい、ホコリ等がエンジンに吸い込まれ内部を傷付ける恐れがあります。

プラグの点検

スパークプラグはエンジンの重要な部品のひとつです。プラグの状態でエンジンの燃焼状態を知ることが出来ます、プラグの焼け色が薄茶色であればエンジンが良好な燃焼状態であることを表します。もし問題があれば PGO 取扱店にご相談下さい。

時間の経過と共に熱やホコリで腐食したり焼け焦げたりするので、ある一定期間で新しい物と交換して下さい。

純正指定プラグ： CR7E (NGK) プラグキャップ 0.6～0.7 mm

点検後は取り付ける前にねじ部とワッシャー部をきれいにしてから取り付けてください。

締め付けトルク： 1.2 kg-m

もしトルクレンチが無い時は、手で回るところまでねじ込み、そこから 1/4～1/2 回転締め付け、後ほどトルクレンチで指定トルクで締め付けを行って下さい。

ギヤオイル交換

- 初回は 300 k m、二回目が 3000 k m、その後は 5000 k m 毎に交換して下さい。
- 交換時容量：90 c c SAE140 全容量：110 c c

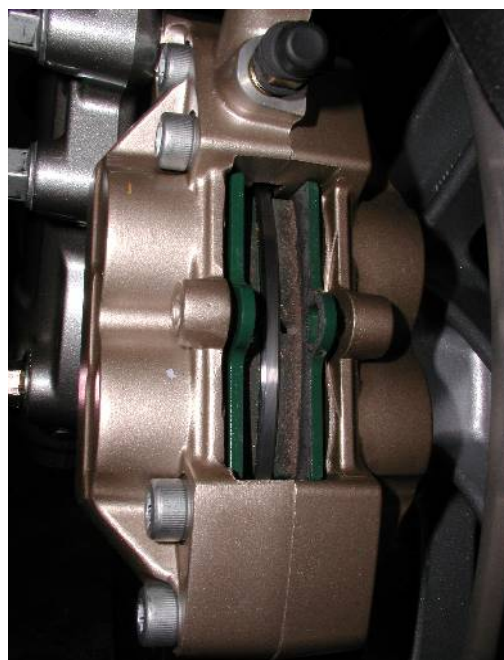


フロントブレーキ点検

フロントブレーキパッドの残量はパッドピンとバックプレートを取り外す事によって簡易点検することが出来ます。パッド中央にある溝が無くなった時が使用限度です。



フロントブレーキパッド



点検状態

※ リヤブレーキも PGO 取扱店にて点検を依頼して下さい。

ブレーキフルード点検

リザーバータンク内のフルード液量が少ないとブレーキ液に空気が入る原因になります。ブレーキ液に空気が混入すると油圧が伝わりにくくなり制動力が著しく低下し危険です、こまめに液量を点検して下さい。

1. 液量点検時はリザーバータンクが水平になるようにハンドルを切ってください。
2. ブレーキフルードは必ず指定の規格品を使用して下さい、それ以外の使用はシール類を痛め液漏れの原因になります。

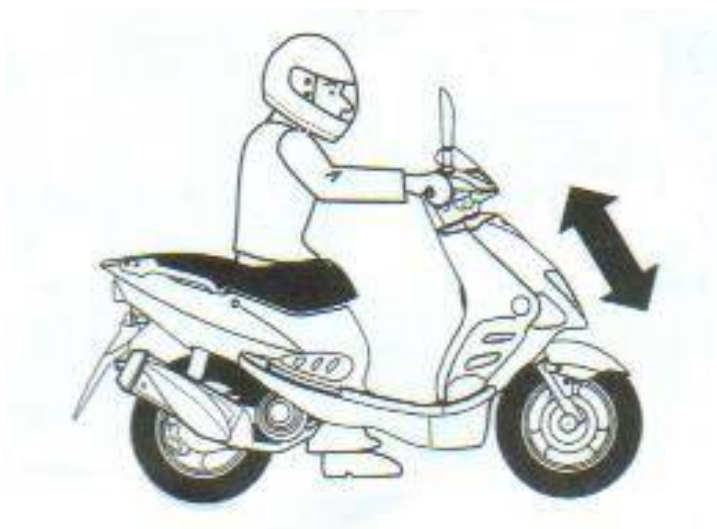
純正指定規格： FMVSS DOT3 or SAE J1703

3. 補充するフルードは同じ種類の物を使用してください、混ぜる事は避けてください。
4. マスターシリンダー内に水が入らないようご注意下さい、水が混ざるとフルードの沸点が下がり、フルード内に気泡を生じさせ大変危険です。
5. フルードは塗装面を侵食します、こぼしてしまった時は直ちに拭き取ってください。
6. ブレーキの整備は資格を持つ整備士に依頼して下さい。

フロントフォーク点検

※ 注意！ アクシデント回避の為に、日常点検を励行して下さい。

1. 目視による点検
インナーパイプの傷、損傷、オイル漏れを点検する。
2. 作動点検
車輻を平坦な場所でハンドルを持ちフロントブレーキを掛けたまま前後にゆすり、フォークの作動を点検する。



ヒューズ

1. ヒューズはシート下のラゲッジボックス後ろのカバー内にバッテリー等と一緒に収納されています。
2. シートを開け、カバーを外して下さい、バッテリーの側方に取り付けてあります。
3. ヒューズが断線している場合はメインスイッチを **OFF** にして、ヒューズが切れた原因を解消してからヒューズを交換して下さい。もしヒューズ交換後メインスイッチをオンにして再びヒューズが断線する場合は PGO 取扱店にご相談ください。



※ 注意！ ヒューズの定格アンペアより大きいアンペアのヒューズを使用しないで下さい。
定格アンペア以上のヒューズを使うと配線に強いダメージを与え、発火の原因となり大変危険です、正しいヒューズをお取り付け下さい。

バッテリー

バッテリーはメンテナンスフリータイプを使用していますので液量の点検及び補充は必要ありません。

万一バッテリー液が漏れている場合は、至急 PGO 取扱店にご相談下さい。

※ 注意！

バッテリーのシール（ふた）を取る事は絶対にしないで下さい、バッテリーを損傷させる恐れがあります。

AFM-125BCE・150BCE 主要諸元

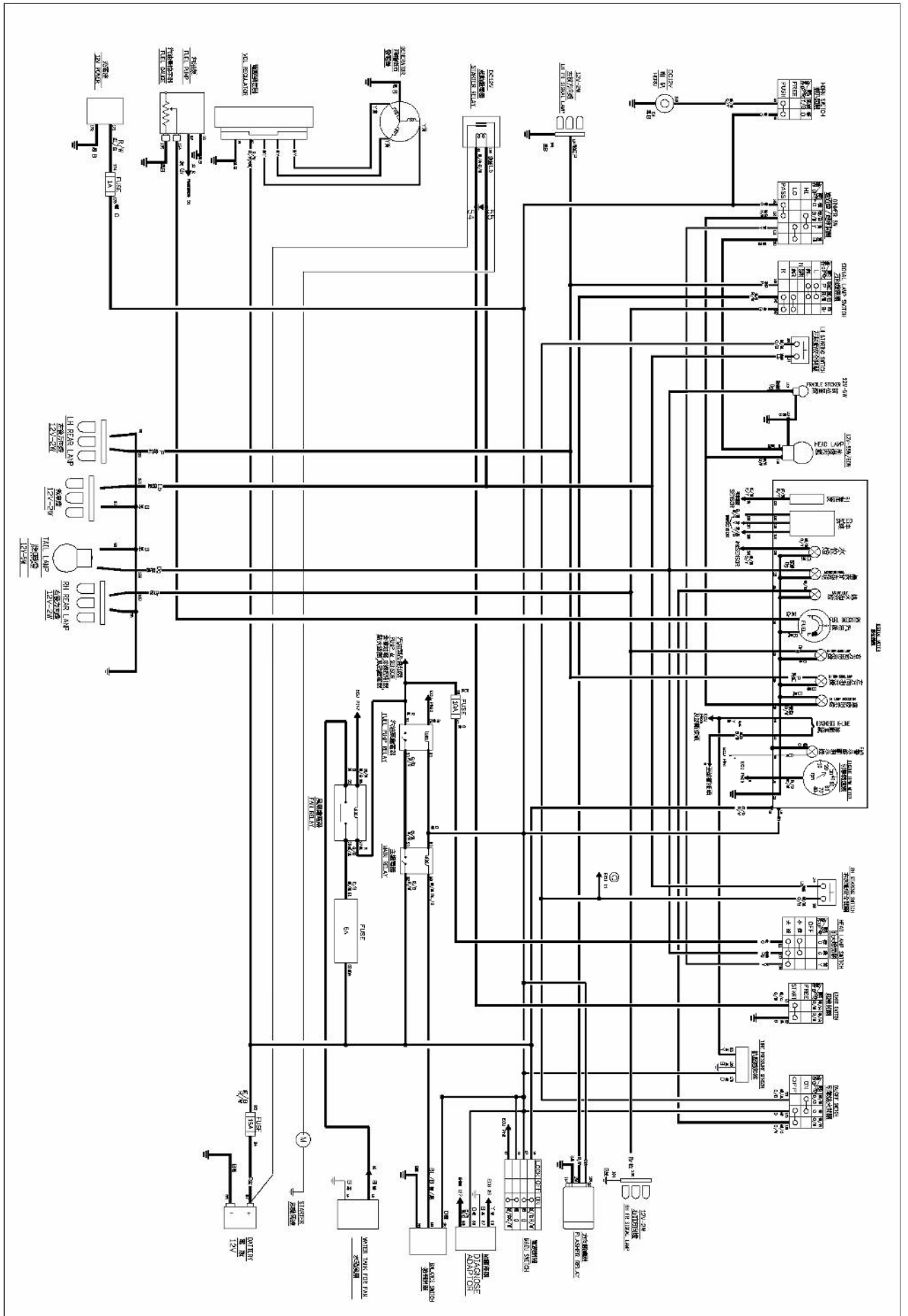
全長 全幅 全高 軸距離 乾燥重量	1885mm 730mm 1170mm 1365mm 145kg (144kg)	ギヤオイル 推奨規格	SAE140 90cc 110cc	ライト、メーター、スイッチ (電圧/ワット数 *必要数)	
		交換容量 全容量		ヘッドライト (HI/LO)	12V60/55w *1
		エアクリナー	乾式濾紙 フィルター	テール/ストップ バルブ	12V5w/21w *1
ENGINE 原動機種類 型式 冷却方式 気筒数 排気量 始動方式 潤滑方式 推奨潤滑油 全容量	4ストローク A5M(A1M) 水冷 単気筒 150.1cc (124.6) セル スターター 圧送飛沫式 SAE15W40 1.0L	燃料 ガソリン タンク容量	無鉛ガソリン 7.0L	ポジション ランプ	12V LED *4
		タイヤ (フロント) (リヤ)	120/60-13 130/60-13	ウィンカー バルブ	12V10w *4
				メーター インジケーター 及び	12V LED
		点火方式 充電方式	トランジスタ フライ ホイール マグネット	ハイビーム インジケーター	12V LED
				シグナル インジケーター	12V LED
スパーク プラグ	CR7E (NGK)	バッテリー タイプ 容量	YTX7A-BS 12V6.3AH		
クラッチ	乾式CVT				
変速機	Vベルト 自動変速式				

※()内は125の数値です。

定期点検記録簿

計画 Km	実行 Km	日付	販売店サイン
3 0 0			
1, 0 0 0			
2, 0 0 0			
3, 0 0 0			
4, 0 0 0			
5, 0 0 0			
6, 0 0 0			
7, 0 0 0			
8, 0 0 0			
9, 0 0 0			
1 0, 0 0 0			
1 1, 0 0 0			
1 2, 0 0 0			
1 3, 0 0 0			
1 4, 0 0 0			
1 5, 0 0 0			
1 6, 0 0 0			
1 7, 0 0 0			
1 8, 0 0 0			
1 9, 0 0 0			
2 0, 0 0 0			
2 1, 0 0 0			
2 2, 0 0 0			
2 3, 0 0 0			
2 4, 0 0 0			
2 5, 0 0 0			

配線図



保 証 書

お買上げ頂いたお車を構成する各部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、この保証書に示す期間と条件に従って、下記の保証修理を致します。

一. 保証範囲：

1. 保証内容 お車を取扱説明書に従った整備をおこない正常に使われている上で万一、部品に材料または製造上の不具合がおきた場合、無料修理いたします。（保証修理は部品の交換もあります）（以下この無料修理を保証修理といいます）。 尚、取外した部品は弊社の所有となります。
2. 保証期間 新車を登録または届出した日から 1 年間もしくは走行距離 15,000 km までのいずれか早い方までが保証期間となります。
3. 保証対象 PGO 日本代理店：（有）ナールフォースが販売する PGO ブランドスクーター

二. 保証修理の受け方：

保証修理をお受けになる場合は、お車とこの保証書をお買上げの販売店へお持ち下さい。これにより保証修理を致します。※提示されない場合は、保証修理をいたしかねます。

三. 保証できない事項：

1. 次に示す事項は保証修理いたしません。
 - (1) 時の経過で発生する不具合（塗装面等の自然退色、メッキ面などのさび、消耗品の劣化等）
 - (2) 機能上影響のない感覚的現象（音、振動、オイルのにじみなど）
 - (3) 地震・台風・水害等の天災・事故・火災に起因する不具合
 - (4) 純正部品及び指定する油脂類（オイル・ブレーキ液・冷却液等）以外の使用に起因する不具合。
 - (5) 煤煙・薬品・鳥糞・塩害等に起因する不具合
 - (6) レース・ラリーなどによる酷使又は一般に車輛が走行しない場所での走行に起因する不具合。
 - (7) 法令に違反する改造及び弊社の認めていない改造に起因する不具合
 - (8) 盗難にあったお車 (9) 無免許運転に起因する不具合
 - (10) 保管又は整備不良に起因する人為的な不具合
2. 次に示す費用は負担いたしません
 - (1) 消耗部品の費用（ライト類・ゴム類・ワイヤー類・ネジ類・ピストン・スパークプラグ・ワッシャー類・ブレーキパット・ブレーキライニング・V型ベルト・ヒューズ・など）
 - (2) 油脂類・燃料・バッテリー液などの交換補充の費用
 - (3) お車を使用出来なかった事による不便さ及び損失など（電話代・レンタカー代・休業補償・営業損失等）
 - (4) 車輛修理に伴うレッカー代

四. 保証修理をお受けできない事項

1. 法令及び取扱説明書に示す取扱方法と異なる使用方法及び弊社が示す仕様の限度（最大積載量・乗車定員）をこえて使用した場合
2. 下記の点検整備を実施していなかった場合
 - (1) 乗車前の点検
 - (2) 弊社の指定する定期点検
3. 定期点検整備記録簿を保持していなかった場合
 - (1) 定期点検整備記録簿を大事に保管してください

五. 保証の発効

この保証書は、お買上げ頂いた正規販売店が保証登録書に必要事項を記入、捺印することにより有効となります。

六. 保証の継承

保証期間が残っているお車をお買上げの際は、ご購入後、直ちに正規販売店へお車と保証書をお持ちになり、名義の書換え、必要な点検（有料）と必要事項の記入、捺印をお受け下さい。これにより残りの期間を保証いたします。

七. 保証の適用

この保証書は、日本国内で販売し使用されることを前提としております。従って海外へ持出す場合は、その時点で保証が打ち切りとなりますのでご注意ください。

- ＊ この保証書は、本書に明示された期間と条件をもとに無料保証をお約束するものです。この範疇を超えたものに関しては、原則として有償となります。

PGO SCOOTER 日本代理店
有限会社 ナーベルフォース
お問合せ先：
埼玉県戸田市美女木 7-15-6
TEL：048-449-0021 FAX：048-449-0022